2012年（平成24年）
11月25日 第234号
毎月3回 5・15・25日発行

高齢者住宅新聞

発行所 ㈱高齢者住宅新聞社 本社 〒104-0061東京都中央区銀座8-12-15 発行人 西岡一紀
TEL 03-3543-6852（編集部） http://koureisha-jutaku.com 年間購読料18,000円（税込み）

実事求是

国民的女優といわれた森光子さんが92歳で亡くなった。数年前まで舞台に立ち、その後も舞台復帰へ向け体力づくりなどを行ってきたという「生涯現役」を絵に描いたような人生だった。仕事という生きがいがあったからこその元気ぶりだったといえるだろう。近年、「高齢者の生きがいづくり」を目指し、行政・NPO法人・民間事業者などが様々な取り組みを行っている。しかし「高齢者になったから○○を始めてみよう」と押し付けられたものが、どこまでその人の生きがいになるだろうか。「自分が好きで数十年続けてきた仕事や趣味を変わらずに続けられる」ことこそが、高齢者が元気でいつづけられる原動力であるといえるだろう。

医療・介護トレンド

iPadでナースコール

在宅医療ネットワーク構築

国は医療と介護の連携体制を構築するため、在宅医療連携拠点事業を今年度から本格化。現在全国100カ所余りで、医療機関を中心とした組織が活動している。一般社団法人在宅医療支援協会（大阪市）は、同事業が掲げる多職種協働をベースに地域医療を支援。iPadを使った在宅医療ネットワークシステムにも注力している。同協会の取り組みをレポートする。

在宅医療支援協会
代表理事・内藤成一郎氏

在宅医療連携拠点事業とは「在宅医療を提供する機関等を連携拠点として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指す」もの。在宅療養支援病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションなどが連携拠点となり、医療と介護の双方に詳しい人材を配置し、地域横断的に活動することで、医療と介護の連携体制を構築する。

国はこの連携拠点事業の整備に栄養活動支援、薬局の整備も含め今年度予算として23億円を拠出。2000拠点の在宅医療連携拠点を目指す。

在宅医療支援協会は病診連携を軸として、後方支援病院や在宅療養支援診療所・訪問看護・訪問介護事業所と家庭の間を支援するために今年8月に設立。在宅医療に不可欠な地域医療を担う医師、調剤薬局、ケアマネジャー、介護事業者などの有志で結成された。医療・福祉・介護に関する各種地域サービスの提供を推進するため、先駆的かつモデル的な在宅医療などに関する事業をサポートする。

複数のクリニックのネットワーク化を推進。コールセンターを設置し、夜間・休日のオンコールや緊急対応を同協会の看護師、医師らが対応する。同協会の相談員が各クリニックへ在宅医療を希望している患者を紹介することもできる。退院後の適切な医療サービスや受入れ施設の調整もネットワークでカバーする。

「ネットワーク化を図ることで、在宅医療を行うクリニックのオンコールや緊急往診などの負担を軽減。施設や家族に対するサービスの向上、他のクリニックとの差別化につながる」（内藤成一郎代表理事）。

協会内では医科、歯科、訪問看護、調剤薬局、柔道整復師など8部会を組織。在宅チーム医療を担う人材の育成、在宅医療連携拠点や在宅サービス拠点の整備、高齢者の住まい対策について各部会が総合的な調整を行う。今後全国組織へと展開を図っていく。

同協会では、専用タブレットを活用したコミュニケーション促進システムをシステム会社と共同で開発。在宅医療に携わる医師、介護施設スタッフ、介護関係者などの意志疎通の円滑化を図る。

iPadを使い、利用者（患者）と医師（スタッフ）がお互いの顔を見ながらTV電話が可能。カメラの向きを切り替えれば、施設スタッフが患者の様子や患部の状態を画像で映し、相手の医師に見てもらうことも可能。見ている画像をその場で写真に撮り、画像データとして保存することもできる。

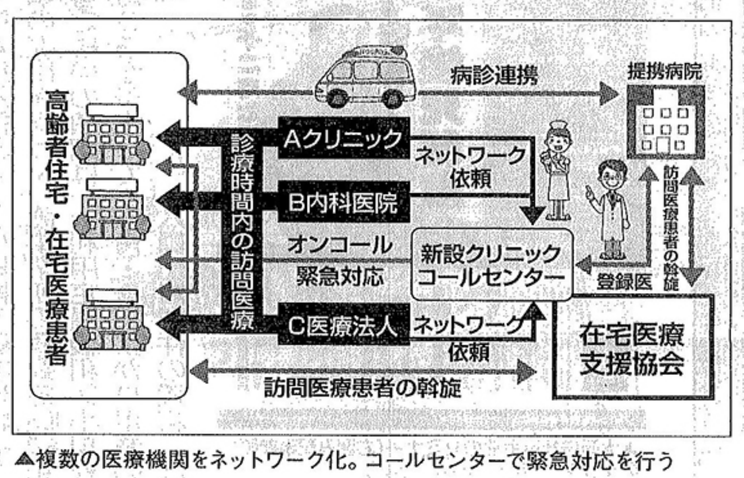
iPadは施設の管理者が保有するケースと個々の入居者にナースコール代わりに配布するケースの両方を想定。医師や管理者はクラウド上に保存される入居者（患者）の基本情報や医療情報をいつでも見ることができる。

院長（管理者）の持つiPadはスタッフ全員および患者（利用者）全員と接続可能とし、患者（利用者）に渡すiPadはスタッフだけと接続するなど、ネットワーク設定は自由に行える。

今年度の診療報酬改定で設けられた、24時間対応や緊急往診と看取りの実績を有する医療機関について評価する機能強化型在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院もサポート。

「iPadを活用すれば、『強化型』の条件で最も困難と言われる患者からの緊急時の連絡先の一元化、月1回以上の定期的なカンファレンスも無理なく行える」（内藤代表理事）。

同協会の法人会員は現在70法人ほど。会費は年1万2000円。個人会員（年会費6000円）、賛助会員も募っている。来年末までに法人会員200法人、個人会員300人ほどを目指す。



▲複数の医療機関をネットワーク化。コールセンターで緊急対応を行う

トピックス TOPICS

"お節介"で介護者支援 サポーター養成講座開始

一般社団法人日本エルダーライフ協会（大阪市）は、要介護者を抱える家族や介護従事者などの介護者を情報面で支える団体。今年8月設立。医療や介護、制度の利用、家族の問題について必要な情報を提供できる専門家を「ケアライフサポーター＝お節介士」として育成する。

日本エルダーライフ協会
代表理事・柴本美佐代氏

ケアライフサポーターは介護経験のある人や、地域の福祉に関わる人、また職業や資格にかかわらずボランティアで声掛けができる人が対象。介護保険制度の利用方法、入所施設、介護関連の民間サービス、ボランティア、介護にかかる費用、主治医、認知症、高齢者の住まいなどに関する情報を高齢者に提供する役目を担う。

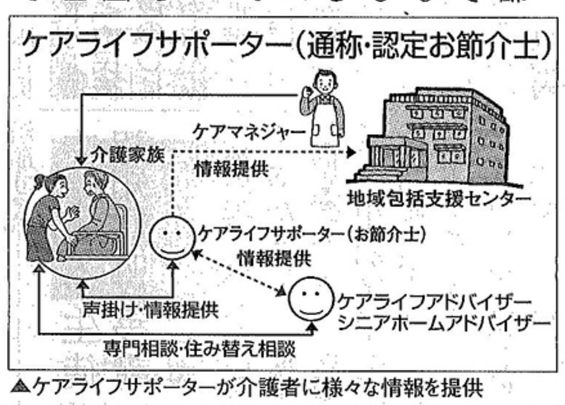
『介護で困っている、何か方法はないか』『介護が始まったら何をすればよいのか』など相談したくても相談する人が少ないのが現状。当協会では介護や老後の暮らしに必要な総合的な情報提供を行う人材を育成。お節介士をよろず相談ができるワンストップの窓口として普及させていきたい」（柴本美佐代代表理事）。

さらに専門知識を活かし、地域や職場で勉強会や相談会を主宰する「ケアライフアドバイザー」も養成。税理士や社会保険労務士、行政書士、看護師、社会福祉士、FPなど様々な専門資格者がケアライフアドバイザーとなることで、それぞれの知識を活かした総合的なサポートが可能。

ケアライフサポーターの養成講座は2時間1回、1時間半2回の合計3回（トータル5時間）。介護保険制度、税金、補助金、行政サービス、高齢者の住まいについて学ぶ。入会金は5000円、年会費は5000円（資格なし は入会金2000円、年会費3000円）。

「身近にいる人が、その人の身の回りのことを手の届く範囲で行うというのが理想。決して大袈裟でなくてよい。お節介ネットワークが幅広い介護者支援活動となる」（柴本代表理事）。

既に大阪で養成講座を開催し10名以上がケアライフサポーター資格を取得。次回の養成講座は大阪で12月6日（15時～17時）、17日（14時～17時）。来年は京都、兵庫でも開催する計画。



▲ケアライフサポーターが介護者に様々な情報を提供

2013年3月12日㈫▶16日㈯ ストックホルム

「福祉施設」視察ツアー

高齢者住宅新聞ではスウェーデン・ストックホルムにて「福祉施設視察ツアー」（3泊5日）を実施いたします。ナーシングホーム（グループホーム）、コーポラティブ住宅、ホームヘルプサービスセンターの視察の他、スウェーデンの福祉事情を学ぶレクチャーも予定しております。

3泊5日

■旅行期間:2013年3月12日（火）～16日（土）3泊5日
■ご旅行代金:大人お一人様298,000円（エコノミークラス・ツイン2名様1室利用）・お一人部屋追加代金25,500円
※燃油サーチャージ往復（目安41,280円）、成田空港使用料（2,040円）、旅客保安サービス料（500円）、現地空港諸税（4,920円）で合計約48,740円別途かかります。（2012年11月14日現在）
■利用航空会社:スカンジナビア航空※エコノミークラス
■利用ホテル:スカンディック・スターソレンチューナ又は同等のスーペリアホテルクラス利用※ツイン2名1室利用
■食事条件:朝食3回 昼食2回 夕食3回（機内食は含みません） ■添乗員:全行程同行します。
■募集人数:20名様（最少催行人員20名様）※但し、満員になり次第締切とさせて頂きます。
■募集締切:2013年1月25日（金）※成田空港以外からご出発を希望される方はご相談下さい。
※詳しい旅行条件を記載した書面をお渡しいたしますので、ご確認の上お申し込み下さい。

お問い合せお申し込み 株式会社 JTB法人東京 法人営業新橋支店 営業第三課
TEL.03-3504-0795 担当者：広瀬雄大／多辺田直美■営業時間9:30～17:30（土・日・祝日休業）
〒105-0004 東京都港区新橋1-18-16 日生新橋ビル5階 総合旅行業務取扱管理者:清水徹也

旅行企画・実施 株式会社JTB法人東京 観光庁長官登録旅行業1767号 日本旅行業協会正会員 東京都新宿区西新宿3-7-1 ボンド保証会員 旅行業公正取引協議会会員
〈2013年1月1日 株式会社JTBコーポレートセールスへ社名変更予定〉

企画協力 株式会社 高齢者住宅新聞社 東京都中央区銀座8-12-15 TEL.03-3543-6852

スウェーデンの福祉施設を視察

主な視察スケジュール&内容

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	行程	食事
1	3月12日(火)	成田空港発 コペンハーゲン空港着 コペンハーゲン空港発 ストックホルム空港着	12:30 16:05 18:10 19:20	SK984 SK1426 専用車	専用車にてホテルへ移動 ホテル着後、ホテルにて夕食 （ストックホルム市内又は近郊泊）	昼：機内食 夕:○
2	3月13日(水)	ストックホルム	終日	専用車	【終日視察】 午 前:SQC（スウェーデン・クオリティ・ケア）本部にて下記のレクチャーを予定 テーマ:スウェーデンならびにストックホルムの福祉事情全般、昔と最新の福祉比較に関して 昼 食:ローカルレストラン 午 後:（通訳コーディネーター付き）・専用車で移動 ※人数制限がございます。 視察候補先:ナーシングホームもしくはグループホームを予定（1施設、Max12～15名前後） ホテル着 （ストックホルム市内又は近郊泊）	朝：○ 昼：○ 夕:○
3	3月14日(木)	ストックホルム	終日	専用車	【終日視察】 （通訳コーディネーター付き）・専用車で移動 ※人数制限がございます。 視察候補先:ホームヘルプサービスセンター視察を予定（1施設、Max12～15名前後） 昼 食:ローカルレストラン 午 後:（通訳コーディネーター付き）・専用車で移動 ※人数制限がございます。 視察候補先:「コーポラティブ住宅」もしくは「Trygghetsboende」住宅視察を予定（1施設、Max12～15名前後） ホテル着 （ストックホルム市内又は近郊泊）	朝：○ 昼：○ 夕:○
4	3月15日(金)	ストックホルム ストックホルム空港発 コペンハーゲン空港着 コペンハーゲン空港発	午前 12:20 13:30 15:40	専用車 SK1421 SK983	空港へ 〈機中泊〉	朝：○ 昼：× 夕：機内食
5	3月16日(土)	成田空港着	10:40			朝：機内食

ご注意:視察訪問先や日程は、先方の都合により変更になる場合がございます。この行程は2012年10月31日現在の運行予定スケジュールを基準としております。